

訪問型学習支援「ゆうがお塾」





理念 「子どもが安心して暮らせるまちづくり」

私たちが実現するのは、**子どもたちが安心して遊び、学び、成長し、愛される未来**です。

子どもたちの厳しい現状を改善するには、家族、地域社会にも働きかける必要があります。そのため、「**まちづくり**」という名を掲げています。

まちづくりLABとは

訪問相談員（社会福祉士）



- 支援チームの中心
- 子ども、家族の相談を受ける
- 訪問支援員に助言
- 関係機関との連携

訪問支援員（大学生）



- 実際に訪問に行く
- 斜めの関係を活かした関わり
- 学習支援を中心とした関わり
- 日頃の悩みなども聴く

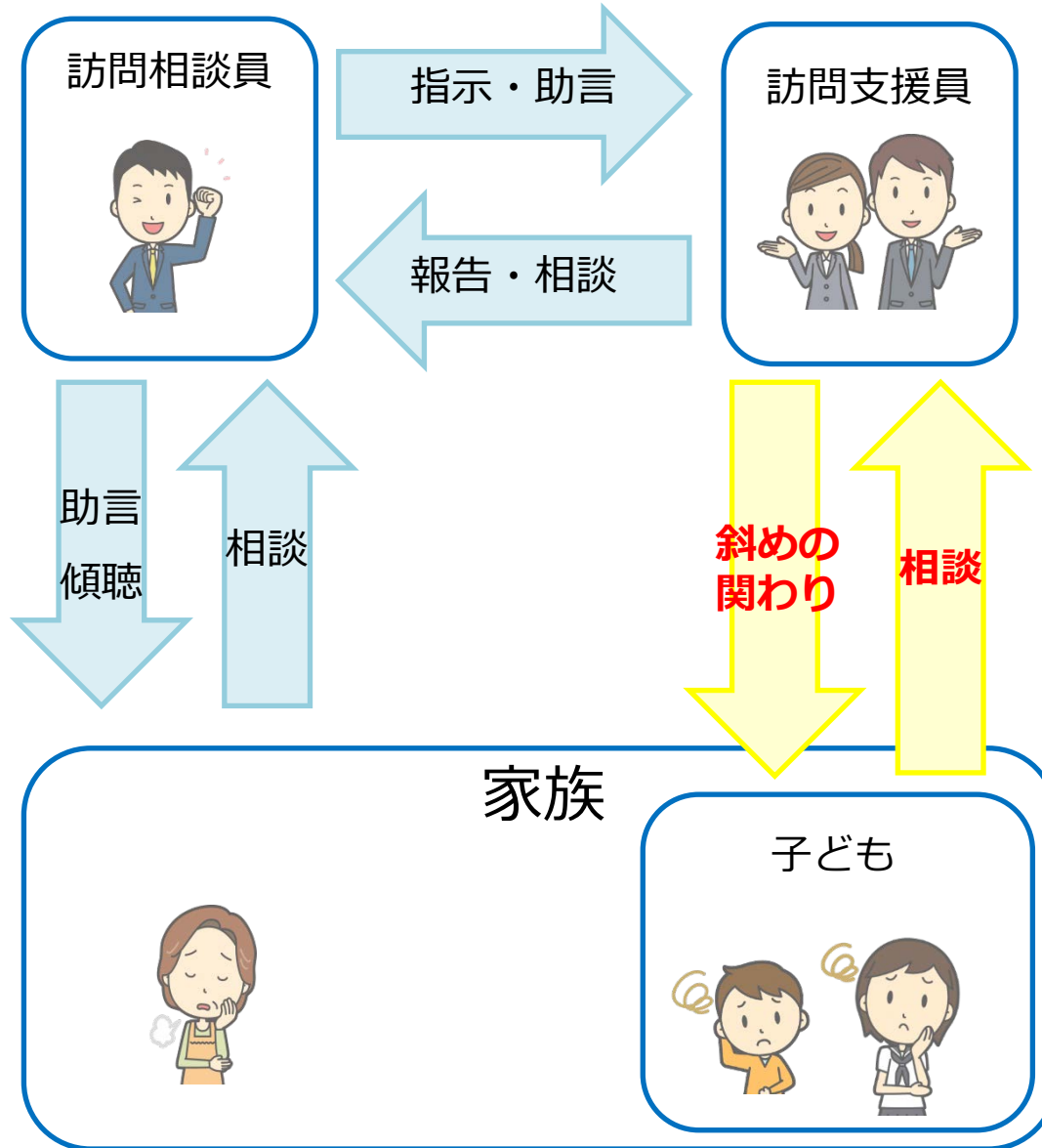
訪問支援



不登校・発達障がい・家庭内暴力・非行など

家庭内だけで対応が困難な課題がある家庭

まちづくりLABとは



応募動機

年度(平成)	26年度	27年度	28年度
訪問型学習支援事業 「ゆうがお塾」の 延訪問回数	29	127	259



約2倍

増えるニーズに応えられる**運営体制を整えたい**

成果

年度(平成)	26年度	27年度	28年度	29年度
訪問型相談支援事業の 延訪問回数				138
訪問型学習支援事業 「ゆうがお塾」の延訪問回数	29	127	259	377
訪問支援全体の延回数	29	127	259	515

不登校 届かぬ無償化

「多様な学びを認めて」

今回の衆院選では、与野党が教育の無償化や負担軽減を軒並み掲げている。ただ、経済的な支援だけで教育の問題がすべて解決するわけではない。例えば中学校のクラスに一人教える不登校の問題。当事者やその親を支える支援者たちは、経済面だけでなく、細かい支援の必要性を訴える。

大半の政党公約対象外

衆院選 2017

「これほどいい？」。福岡県内の公民館で、中学1年の男子生徒(13)が数学のプリントを解きながら、向かいに座る男子大学生に質問した。「支援員に聞いた。」「支援員は8年ほど前に離婚した。アルコル依存症からの回復途上で、生活保護を受けて暮らす。身近に頼れる親戚や友人もいない。岡市、生徒は週9回、男子の小学校卒業と同時に引越したが、息子が入学、代表で社会福祉



士の永田充さん(26)は「表情が明るくなった」と話し、生徒も高校進学への意欲を示すようになった。文部科学省の調査によると、年間30日以上欠席した中学生は約12万000人。中学生に限ると35人に一人に上る。だが、昨年成立した、不登校の児童生徒に対する国や自治体の支援を明記した教育機会確保法では、フリースクールやまちづくりLABのような家庭学習を義務教育に認める規定は「不登校を助長する」として見送られた。衆院選の公約で「フリースクールへの公的支援」を明記したのは公明党と共産党だけだ。

まちづくりLABは県と市の補助金を受け、それだけでは運営できず、学習支援の利用者は1時間1500円を払う。文科省の15年の調査では、全国のフリースクールの平

保護者の教育の悩みなども電話相談に心じる永田さんは「支援する側への支援も必要だ」と指摘する。福岡市内に9月に開校した高校生向けのフリースクール「リパチ

イスクール スタディ プレイス」は、寄付金などを元に、ひとり親家庭に月2万5000円の利用費を最大7割減免する独自の奨学金制度を設けた。スクールを運営するNPO法人さん(4)は「経済的にフリースクールに行かない不登校の子どもは少なくない」と話す。ただ、車場さんも「無償化だけでは支援は届かない」と言う。スクールは「学校に行けない子のための場所」というネガティブな印象を減らす必要があるため、室内をフェのよみ明るい空間にするなど工夫を重ねている。永田さんは「学校のように集団で学ぶことがすべではない。いろいろな学びの場があることを認めてほしい」と訴える。

2017年(平成29年)10月16日(月) 福後

今後の事業展開

利用料金の見直し



大学生のネットワークづくり



支援者のネットワークづくり



今後の事業展開

多様化、増加するニーズ  ひとつのプランでは対応困難

現在のプラン

1 時間1500円

生活困窮世帯
ひとり親世帯

スタンダードプラン

1 時間2000円

一般家庭

学習支援プラン

1 時間2500円

学習支援に特化

今後の事業展開

利用料金の見直し



大学生のネットワークづくり



支援者のネットワークづくり



● 後援 福岡市、福岡市社会福祉協議会

はじめての1歩

なにかやりたい！
なにかはじめてたい！
はじめの一歩を踏み出そう！

キャンパス

この研修会は福岡の子ども支援の現状を知り、共に学び考えることで
私たち大学生にできる支援を考える場です。

私たちの力を必要としている子どもたちがいます。現場で学べることが
たくさんあります。第1回目の今回は、私たちにできることを学んでいきます。

5月13日

参加費
無料

テーマ

支援現場における大学生支援員、
ボランティアの必要性

時間 10:30 (10:00 開場) ~ 17:15

場所 福岡大学中央図書館 多目的ホール
(福岡市城南区七隈8丁目19番1号)

対象 福祉、心理、教育などを専攻する大学生 50名

申し込み

定員になり次第、
受付終了となります



こちらの申込フォームまたはメールにてお申込下さい。
メールアドレス info@kogakuren.com

● 協賛

●株式会社ゼロメディア

● NPO 法人 子ども NPO センター福岡
● 特定非営利活動法人 そたちの樹

● 協力

● 特定非営利活動法人 福岡自由学舎 ESPERANZA
● 認定 NPO 法人 エデュケーションエナジー

● NPO 法人 SF021 JAPAN
● NPO 法人 まちづくり LAB

タイム スケジュール

10:00 開場
10:30 開会式
10:40 団体紹介

10:45 活動報告

まちづくり LAB の活動から見た支援現場における大学生の必要性



講師 永田 亮 氏
(NPO 法人まちづくり LAB 理事長)

12:15 休憩

13:15 シンポジウム

各分野から見た大学生が支援現場に入る意義



パネラー 田北 雅裕 氏
(九州大学大学院経済学・経営学専攻 教授)

2000年、学生時にデザイン活動 triviva を開始。以降、まちづくりという切り口から様々なプロジェクトに携わる。09年、九州大学に着任。教育学部で教鞭をとる傍ら、認定 NPO 法人 SOS 子どもの村 JAPAN 理事、福岡市里親委託等推進委員などを務め、デザインの観点から子どもを支える実践に取り組んでいる。著書(共著)に「クリエイティブ・コミュニティ・デザイン/フィルムアート社」など。



パネラー 大西 良氏
(筑業女学館大学 人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 准教授)

専門は社会福祉学(児童福祉、精神保健福祉)。福岡県内の公立小・中学校でスクールカウンセラーとして不登校や非行、虐待などの相談援助活動に携わった経験がある。最近では、大学生と共に「子ども食堂」の活動を通して、福祉的な課題を抱える子どもたちなどへの支援を行っている。



パネラー 添田 祥史 氏
(福岡大学 人文学部 教育・臨床心理学 准教授)

専門は成人基礎教育。教育・福祉・労働にまたがる人が人として生きていく上で必要な学びの保障について関心をもつ。近接領域の専門家と一緒に、実践や研究をゼロから新しく立ち上げることが好きで積極的に取り組んでいる。それぞれの現場の実践知を共有可能なものへと「翻訳」していくような、現場が元気になる研究をめざしたいという思いがある。最近では、子どもの貧困問題や生活困窮者の自立支援についても関わっている。

14:45 休憩

15:00 グループワーク

私たちに、いまできること



17:00 閉会式

お問い合わせ
092-481-8119
info@kogakuren.com

今後の事業展開

利用料金の見直し



大学生のネットワークづくり



支援者のネットワークづくり



今後の事業展開

福岡子ども支援ネット

福岡の情報を一元化し、支援からのこぼれ落ちを防ぐ



医者



学校



地域住民



ハローワーク



民間支援者



弁護士



警察



フリー
スクール

必要な機関とすぐに繋がり合える情報網

相談

入口としての
役割

情報共有・意識共有をしながら包括的な支援体制を築く

自立

出口としての
役割



親の会



就労先



大学生



保育園



学習塾



放課後等
デイサービス



保護者の
就労支援



地域の学習会



企業
(就労体験)

問題の早期発見・早期対応を実現し、重篤化・複雑化を防ぐ

さいごに

必要と認められ、社会資源のひとつとして

成り立ってきたいまだからこそ、

求められている支援・役割を届けられるよう

前に進んでいきます。